

# 伊都キャンパスの生活状況等に関する学生生活アンケートの概要

平成20年3月11日  
福利厚生施設WG

## 1. 調査の目的

伊都キャンパスで勉学している学生のキャンパスライフの状況等を調査するとともに、住居等に関する意向調査を実施し、その結果をもとにして、伊都キャンパスにおける学生生活支援施設（学生寄宿舍・食堂・課外活動施設等）の整備・運営等への活用並びに周辺地域での学生用宿舍の建設促進を図ることを目的とする。

## 2. 調査対象

工学部，工学府及びシステム情報科学府の学生

## 3. 調査期間

平成19年12月10日（月）～平成19年12月27日（木）

## 4. 調査方法

無記名によるアンケート

## 5. 回収結果

(1) 対象者数 5,180人

(2) 回収数 943人（回収率 18.2%）

(3) 回収内訳

学部学生 531人（56.3%） 修士課程 326人（34.6%）

博士課程 77人（8.2%） 研究生等 9人（0.9%）

うち留学生 126人（13.4%）

(4) 回答者の性別

男 90.8% 女 9.0% 無回答 0.2%

## 6. アンケート回答の結果概要

(1) 現在の住居について

伊都キャンパスでは、アパート等（学生寄宿舍も含む）に居住する学生の割合は84%であり、六本松キャンパスの57%に比べ多く、また、自宅等に居住する学生の割合は16%と、六本松キャンパスの43%に比べ少ない。

アパート等（学生寄宿舍も含む）に居住する学生の割合は、男子学生が81%、女子学生が82%で、ほとんど差はなく、また、自宅等も男子学生が18%、女子学生が18%で、差がない。

(2) 1か月の部屋代について

伊都キャンパスでは、4万円以上5.5万円未満の学生の割合は53%であり、六本松キャンパスの30%に比べると高い。

留学生は、3万円未満の割合は13%と、留学生以外の2%に比べ、部屋代に経費をかけていない。

( 3 ) 主な通学方法について

伊都キャンパスでは、車・バイクの利用が53%と、六本松キャンパスの10%に比べ高く、自転車・徒歩は19%と、六本松キャンパスの36%に比べ少ない。

男子学生は、公共交通機関の利用が25%と女子学生の42%に比べ少なく、また、車・バイクの利用は50%と、女子学生の30%に比べ高い。

( 4 ) 通学時間について

伊都キャンパスでは、通学時間が30分未満の学生の割合が65%で、六本松キャンパスの23%に比べ高い。

通学時間が1時間以上の学生は、伊都キャンパスでは17%であるが、六本松キャンパスでは、54%と高くなっている。

( 5 ) キャンパス移転に伴う転居について

伊都キャンパスの学生のうち67%が、すでに転居を完了していると回答しているが、転居しないと答えた割合は、28%にも上っている。

六本松キャンパスの学生は、72%が転居の予定があると回答している。

こうした結果の背景には、伊都を主たるキャンパスとしているのが学部3年次以上の学生であることが関係していると思われる。また、地理的状況や交通アクセスといった問題も関係していると考えられる。

転居を希望するエリアは、福岡市西部が93%、前原市が3%となっている。

( 6 ) ドミトリー への入居申請について

入居を申請した割合は、8%である。

男女の割合は、男子学生が7%、女子学生は15%であった。留学生は18%が、申請したと回答しているが、留学生以外の申請者は5%と低い。

入居を申請した理由については、「経費が安い」が66%で一番高く、次いで「大学に近い」が28%となっている。

( 7 ) キャンパス生活の満足について

伊都キャンパスでは、キャンパスでの生活に「非常に満足している」及び「満足している」割合は19%と、六本松キャンパスの37%に比べ低い。

「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は、伊都キャンパスでは46%と、六本松キャンパスの32%に比べ高い。

男女別では、「非常に満足している」及び「満足している」割合は、男子学生20%、女子学生21%と差はほとんどないが、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は、男子学生45%、女子学生34%であった。

こうした結果の背景には、伊都キャンパス及びキャンパス周辺のインフラが整備途中であることが関係していると考えられる。

留学生は、「非常に満足している」及び「満足している」割合は22%、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は42%となっている。